

## Form A 書類 A

## 申請書及び申請書・現地審査チェックリスト

コラム 1	コラム 2
コミュニティ記載欄	審査員記載欄
セクション A コミュニティの概要	
<p>A.1 簡潔にコミュニティ及びその歴史的発展について述べよ。</p> <p>松原市は、大阪府のほぼ中央に位置し、北は大和川を隔てて大阪市、南と西は堺市という 2 つの政令指定都市に接するまちです。</p> <p>1955 年 2 月 1 日、2 町 3 村が合併し、人口約 3 万 6,000 人の田園都市として発足しました。大阪中心部への交通の便が良く距離的にも近いことから、1970 年代に急激に人口が増加し、現在では人口約 12 万 4,000 人あまりの住宅都市に変貌しています。また、古くから交通網が充実しており、市域には高速道路、主要道路が東西南北に走っています。さらに北部を流れる大和川に沿って、府道高速大和川線の整備が進んでおり、南大阪における広域交通拠点としてさらなる発展を続けています。</p> <p>(詳細は報告書 P1～6 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>A.2 安全に関する全体的な方策、抱負・目標、コミュニティの取り組みについて述べよ。</p> <p>松原市では、行政と市民の協働で策定した体系的・計画的にまちづくりを進めていくための基本指針である松原市第 4 次総合計画（計画期間 8 年）の基本目標の 1 つに「安心して住み続けることができるまちづくり」を掲げ、セーフコミュニティ（SC）の推進を図っています。誰もが安心して安全に暮らすことができ、住んでいて良かった、住みたいと思える魅力ある松原市を目指し、行政、市民をはじめ地域の様々な団体が、ともに安全の向上への取り組みを実施しています。</p> <p>(詳細は報告書 P7、P86～87 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>A.3 首長（及び同等の立場）及び実行委員会はどのように関わっているか。誰が分野横断的なグループをまとめているか述べてよ。</p> <p>市長が松原市 SC 推進協議会の会長となり、SC 活動を包括的に管理、推進しています。</p> <p>なお日本は、政治の仕組みが欧米とは異なるため、執行委員会に該当する組織は設置されていません。しかし、組織を超えた分野横断的な協働については、松原市 SC 推進協議会が担い、行政内の協働については、市役所市民安全課が調整しています。</p> <p>（詳細は報告書 P34 参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p>首長は関わっているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>実行委員会は関わっているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>どこが分野横断的なグループをまとめているか？</p>
<p>A.4 コミュニティにおけるリスクの概観について述べてよ。</p> <p>①子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0 歳から 4 歳の救急搬送に至った事故発生率が、高齢者に次いで高い。</li> <li>・小中学生は、学校内でのけがが多い。</li> <li>・10 万人あたりの児童虐待の相談件数が、全国、大阪府より多い。</li> </ul> <p>②高齢者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・65 歳以上の高齢者の救急搬送件数が他年齢層に比べて多い。</li> <li>・10 万人あたりの高齢者虐待相談件数が、全国、大阪府より多い。</li> </ul> <p>③交通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送件数のうち約 43%が交通事故によるものである。</li> <li>・交通事故による救急搬送のうち 45%が自転車乗用中のものである。</li> </ul> <p>④犯罪</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国と比較して 10 万人あたりの犯罪発生率が高い。</li> <li>・刑法犯の約半数が街頭犯罪である。</li> </ul> <p>⑤自殺</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外因による死亡のうち自殺が最も多く、特に 15 歳から 44 歳までの年齢層において、自殺が死因の第 1 位となっている。</li> </ul> <p>⑥災害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地勢的特徴として多くの活断層に囲まれており、地震の被害に直面する可能性が高い。</li> </ul> <p>（詳細は報告書 P9～33 参照）</p>	<p>リスクの外観は十分に記述されているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

セクション B コミュニティの構造	
<p>B.1 人口動態構造<sup>1</sup>について述べよ。</p> <p>松原市の人口は、2012年10月1日現在12万4,498人で、1985年をピークに毎年減少する傾向にあります。年齢3区分別の人口推移をみると、15歳未満の年少人口や15歳から64歳までの生産年齢人口が減少する一方で、65歳以上の老年人口が増加しており、少子高齢化が進んでいます。そのため、65歳以上の高齢者が一般負傷によって救急搬送される件数や割合は、年々増加しています。</p> <p>(詳細は報告書 P2～6 参照)</p>	<p>人口動態構造とリスクについて十分に記述されているか？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.2 現在の安全向上・傷害予防（の取り組み）及び今後の計画について述べよ。</p> <p>松原市では、全ての性別、年齢、環境を対象とした予防活動を実施しています。(詳細は報告書 P39～44 参照)</p> <p>中でも、地域診断の結果明らかとなった重点課題については、それぞれ対策委員会を設置し、関係団体とともに取り組みを進めています。(詳細は報告書 P35～36、P49～72 参照)</p> <p>また松原市では、まちづくりの基本指針である松原市第4次総合計画において、SCの推進を位置づけています。総合計画の基本構想は、8年毎に改定され、実施計画は4年毎に見直しされます。施策として SC の推進を明示することにより、長期的に SC 活動を展開していくとともに、計画の進行管理の中で、SC 活動についても、その取り組みや効果を確認し、5年毎の再認証につなげていきます。</p> <p>(詳細は報告書 P86～87 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.3 コミュニティの地方政治家による継続的な傷害予防への支援について述べよ。また、プログラムのどのような部分がより大きな単位の地方政治によって担当・支援されているか述べよ。</p> <p>市長が松原市 SC 推進協議会の会長となり、SC 活動を包括的に管理、推進しています。</p> <p>また、大阪府からの支援として、松原警察署、藤井寺保健所から、けがや事故、犯罪に関するデータの提供等を受けるとともに、松原市 SC 推進協議会や各対策委員会、外傷調査評価委</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<sup>1</sup> 英語「demographics」には、人種、年齢、収入、教育、就業状況、居住地域などが含まれる。

<p>員会の委員として参画し、活動の推進を図っています。 (詳細は報告書 P34～36 参照)</p>	
<p>B.4 すでに策定された安全向上・傷害予防の取り組みを推進するための方策(戦略)について述べよ。</p> <p>松原市では、安全・安心の地域づくり、総合的防災体制の強化、高齢福祉の促進、障害福祉の促進、地域の子どもの育成と支援など様々な安心・安全に関する取り組みを実施しています。それらの計画は、松原市のまちづくりの基本指針である松原市第4次総合計画において、進行管理を行っています。 (詳細は報告書 P86～87 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.5 誰(どこ)が安全向上・傷害予防プログラムの責任者か。そして、地域の政治及び行政組織においてどこに位置しているか記載せよ。</p> <p>松原市長(松原市 SC 推進協議会会長)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.6 安全向上・傷害予防プログラムをリードしているユニット(部署等)はどこか記載せよ。</p> <p>松原市役所 総務部 市民安全課 セーフコミュニティ係</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.7 セーフコミュニティは、継続的なプログラムかプロジェクトか述べよ。</p> <p>松原市では、まちづくりの基本指針である松原市第4次総合計画において、SCの推進を位置づけています。(総合計画の基本構想は、8年毎に改定され、実施計画は4年毎に見直しされます。)施策としてSCの推進を明示することにより、長期継続的なプログラムとしてSC活動を展開します。 (詳細は報告書 P86～87 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.8 全コミュニティをカバーしている地方政治家によって具体的な目標は設定されているか。また、それは、何か述べよ。</p> <p>2011年に策定した松原市第4次総合計画において、全市を対象とした目標が設定されています。 (詳細は報告書 P86～87 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.9 その目標を導入したのは誰か記載せよ。</p> <p>松原市長 澤井 宏文</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>B.10 どのようにその SC 目標は評価され、誰にその結果が報告されるか述べてよ。</p> <p>重点課題ごとの対策委員会において、それぞれの活動に対する短期、中期、長期の成果目標及び指標を設定しています。それらを基に、短期・中期については各対策委員会で、長期については外傷調査評価委員会において評価します。また、それらの結果は、松原市 SC 推進協議会に報告し、内部評価を行います。さらに全ての結果を年間レポートにまとめ、JISC に提出することで、外部評価を行います。 (詳細は報告書 P76～83 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.11 安全向上のために経済的な動機は活用されているか。活用されている場合は、どのように活用されているか述べてよ。</p> <p>急速な高齢化に伴い、介護保険に係る費用も増加しています。介護保険に係る費用の伸び幅を指標として設定し、介護予防プログラムの効果測定に活用しています。</p> <p>また、学校等で発生するけがについては、日本スポーツ振興センター共済制度の保険適用となります。その保険適用となる医療費を指標として設定し、学校等でのけが予防プログラムの効果測定に活用しています。 (詳細は報告書 P77～78 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>B.12 安全向上のための地域レベルでの規制はあるか。ある場合は説明せよ。</p> <p>松原市では、2002 年に「松原市安全なまちづくり条例」を制定しています。そのなかで、市の責務として「市民の安全のための施策の立案及び実施に当たっては、市民参加によるまちづくりをすすめるべき」と規定し、市民の役割として「自分たちのまちは自分たちで守るという自覚の下に、地域の防犯活動、防災訓練、交通安全運動その他市民安全のために必要なコミュニティ活動への参加等を通じて、まちの安全化に努めるものとする」と規定しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p><b>セクション C 【指標 1】</b></p>	
<p>1.1 安全向上・傷害予防プログラムの管理・調整・企画を担う分野横断的なグループについて述べてよ。</p> <p>松原市では、SC の推進母体として、安心安全に関する様々な分野の団体で構成された松原市 SC 推進協議会を設置しています。この松原市 SC 推進協議会は、松原市の執行機関の附属機</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>関設置条例により設置されています。 (詳細は報告書 P34 参照)</p>	
<p>1.2 当該地域の政府及び保健分野はどのように安全向上・傷害予防において協働しているか述べてよ。</p> <p>松原市 SC 推進協議会の事務局は、松原市役所の市民安全課が担当し、各対策委員会の事務局については、市役所の関連課が担当しています。保健分野としては、高齢介護課、子育て支援課が関連する対策委員会の事務局を担っており、この他に地域保健課、障害福祉課、福祉総務課の職員が対策委員会の委員として参画しています。また、大阪府の保健機関である藤井寺保健所も松原市 SC 推進協議会、外傷調査評価委員会及び対策委員会に参画しています。 (詳細は報告書 P34～36 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>1.3 赤十字、退職者組織、スポーツ組織、保護者学校組織などの NGO が安全向上・傷害予防に関わっているか述べてよ。</p> <p>松原市 SC 推進協議会や対策委員会、外傷調査評価委員会には、行政機関をはじめ、自治会連合会、商工会議所、大学、医師会、歯科医師会、赤十字奉仕団、老人クラブ連合会、PTA、民生児童委員協議会などの民間及び各種団体が参画しています。 (詳細は報告書 P34～36 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>1.4 一般市民にハイリスクの環境や状況について知らせる仕組みはあるか述べてよ。</p> <p>主には、松原市の広報紙やホームページを活用しています。また、出前講座で地域に出向き、SC の取り組み等を紹介するとともに、日常生活の中で感じているそれぞれの地域のハイリスク環境や状況について、地域の人から意見を出してもらい、お互いに危険箇所等の情報共有を図っています。さらに、地域の団体や行政が行っている講演会等、人が集まる機会を利用し、SC の取り組み等を紹介したチラシを配布しています。 (詳細は報告書 P37～38 参照)</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>1.5 どのように取り組み(work)が持続可能な方法で組織化(体系化)されているか述べてよ。</p> <p>松原市における SC の推進体制は、意思決定機関として分野横断的な委員で構成された松原市 SC 推進協議会を中心に構築しています。さらに、SC の市役所内の推進組織である SC 推進</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>本部、外傷調査の仕組みや取り組みの評価の仕組みを構築する外傷調査評価委員会、松原市の重点課題に対し分野横断的な委員で構成された対策委員会を設置し、それぞれ連携し、活動を実践する体制を整えています。(詳細は報告書 P33～36 参照)</p> <p>また、この活動を継続していくために、まちづくりの基本指針である松原市第 4 次総合計画に SC の推進が位置づけられています。(詳細は報告書 P86～87 参照)</p>	
<p>セクション D 【指標 2】</p>	
<p>2.1 下記の領域における安全向上・傷害予防に関する継続的な取り組みについて記載すること。また、特定の NGO はじめ各分野がどのようにかかわっているか述べてよ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 交通安全</li> <li>2. 家庭の安全及び余暇時間の安全</li> <li>3. 子どもの安全</li> <li>4. 高齢者の安全</li> <li>5. 労働安全</li> <li>6. 暴力予防</li> <li>7. 自殺予防</li> <li>8. 防災及び災害対策</li> <li>9. 公共（場）の安全</li> <li>10. 病院の安全</li> <li>11. スポーツの安全</li> <li>12. 水の安全</li> <li>13. 学校の安全（セーフスクール）</li> </ol> <p>これらのうち、コミュニティではなく、他の組織や機関によって担われているものはあるか。それについて、コミュニティはどのように関わっているか述べてよ。</p> <p>松原市では、様々な安全向上・傷害予防に関する継続的な取り組みを実施しています。各領域の主な取り組みは以下の通りです。(詳細は報告書 P39～44 参照)</p> <p>アルファベットは、報告書 P39～P44 の内容と一致しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 交通安全</li> <li>F. 登下校時の見守り活動</li> <li>H. 幼児 2 人同乗用自転車購入費助成事業</li> <li>I. 交通安全キャンペーン</li> </ol>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>2. 家庭の安全及び余暇時間の安全</p> <p>A. 乳幼児健診での事故予防啓発</p> <p>B. 緊急通報システム</p> <p>C. ひきこもり対策事業</p> <p>D. 南河内圏域市町村徘徊高齢者 SOS ネットワーク</p> <p>K. 児童遊園整備事業・公園遊具点検</p> <p>3. 子どもの安全</p> <p>A. 乳幼児健診での事故予防啓発</p> <p>B. 緊急通報システム</p> <p>E. 市立小学校セーフティスクールサポート事業</p> <p>F. 登下校時の見守り活動</p> <p>H. 幼児2人同乗用自転車購入費助成事業</p> <p>I. 交通安全キャンペーン</p> <p>J. スポーツ安全講習会</p> <p>K. 児童遊園整備事業・公園遊具点検</p> <p>L. AED の設置・救急救命講習会</p> <p>M. 農業用施設整備事業</p> <p>N. こんにちは赤ちゃん事業</p> <p>O. 母子生活支援施設</p> <p>P. 防犯灯設置・維持管理補助事業</p> <p>Q. 教育相談</p> <p>T. 健康教育・健康相談</p> <p>U. 防災図画展</p> <p>V. 松原市防災総合訓練</p> <p>W. 地域ネットワークプロジェクト協議会による防災訓練</p> <p>4. 高齢者の安全</p> <p>B. 緊急通報システム</p> <p>C. ひきこもり対策事業</p> <p>D. 南河内圏域市町村徘徊高齢者 SOS ネットワーク</p> <p>I. 交通安全キャンペーン</p> <p>J. スポーツ安全講習会</p> <p>K. 児童遊園整備事業・公園遊具点検</p> <p>L. AED の設置・救急救命講習会</p> <p>M. 農業用施設整備事業</p> <p>P. 防犯灯設置・維持管理補助事業</p> <p>S. 消費生活相談事業</p> <p>T. 健康教育・健康相談</p> <p>V. 松原市防災総合訓練</p>	
---	--



<p>W. 地域ネットワークプロジェクト協議会による防災訓練</p> <p>5. 労働安全</p> <p>G. 大阪危険ゼロ先取運動</p> <p>6. 暴力予防</p> <p>C. ひきこもり対策事業</p> <p>N. こんにちは赤ちゃん事業</p> <p>O. 母子生活支援施設</p> <p>P. 防犯灯設置・維持管理補助事業</p> <p>7. 自殺予防</p> <p>Q. 教育相談</p> <p>R. 青年相談・自立支援セミナー</p> <p>S. 消費生活相談事業</p> <p>T. 健康教育・健康相談</p> <p>8. 防災及び災害対策</p> <p>U. 防災図画展</p> <p>V. 松原市防災総合訓練</p> <p>W. 地域ネットワークプロジェクト協議会による防災訓練</p> <p>9. 公共（場）の安全</p> <p>L. AED の設置・救急救命講習会</p> <p>M. 農業用施設整備事業</p> <p>10. 病院の安全</p> <p>各病院において、医療安全管理対策を実施しています。</p> <p>11. スポーツの安全</p> <p>J. スポーツ安全講習会</p> <p>12. 水の安全</p> <p>M. 農業用施設整備事業</p> <p>13. 学校の安全（セーフスクール）</p> <p>E. 市立小学校セーフティスクールサポート事業</p> <p>F. 登下校時の見守り活動</p>	
<p>2.2 両性、全年齢層、全環境・状況に関する取り組みを記載すること。「転倒予防」などすべての取り組みについて記載し、どのようにその取り組みが行われているか述べよ。</p> <p>松原市では、全ての性別、年齢、環境を対象とした予防対策が行われています。</p> <p>（詳細は報告書 P39～72 参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

セクションE 【指標3】	
<p>3.1 全てのハイリスクにあるグループを把握し、安全を向上するためにどのような対策を講じたのか述べて。ハイリスクにあるグループとは、下記のようなグループがよく挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先住民</li> <li>2. 低所得層</li> <li>3. コミュニティ（職場を含む）における少数（マイノリティ）集団</li> <li>4. 犯罪被害や自傷を含む意図的要因による外傷のリスクにある人</li> <li>5. 虐待をうける女性・男性・子ども</li> <li>6. 精神的疾患、発達障害及び他の障害を有する人</li> <li>7. 安全でないスポーツ、余暇活動に参加している人</li> <li>8. ホームレス</li> <li>9. 自然災害において外傷のハイリスクにある人</li> <li>10. 特定の道路や交差点、水害被害想定地などハイリスクの環境の近くで生活したり働いたりしている人</li> <li>11. 宗教、民族及び性的な嗜好等によりハイリスクにある人</li> </ol> <p>松原市では、下記のグループをハイリスクグループとし、それぞれに対し、予防活動を実施しています。</p> <p>①外国人住民</p> <p>松原市の人口のうち、外国人登録者の占める割合は1%程度で、実数では約1,300人います。言葉や文化等の違いから、日常生活において何らかの支障をきたすことが考えられるため、以下の取り組みを実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳・翻訳サポート</li> <li>・日本語読み書き教室（詳細は報告書P45～46参照）</li> </ul> <p>②虐待を受けている子ども、女性及び高齢者</p> <p>松原市では年間数十件の虐待に関する相談があります。虐待を受けている人は、自らその状況について口にすることが少なく、抱え込む傾向があります。また、外部からも、その状況を把握することが困難であることから、以下のような取り組みを実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性相談</li> <li>・母子生活支援施設（詳細は報告書P46～47参照）</li> </ul> <p>※子どもと高齢者の虐待については、対策委員会で取り組みを実施。（詳細は報告書P53、P56参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>③身体障害者及びその他の障害を有する人</p> <p>松原市には、障害を有する人が、約 6,700 人います。家庭内や公共の場、また、災害時において、移動が困難であることや、状況を把握できずに被害に遭ってしまうことが考えられるため、以下のような取り組みを実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者身体機能向上訓練事業</li> <li>・火災等情報提供事業</li> </ul> <p>(詳細は報告書 P47～48 参照)</p> <p>④大和川等の河川周辺住民</p> <p>松原市には、北部に大和川が流れています。雨水ポンプ施設の整備や、河川等の改修により、大規模な水害が発生することはなくなりましたが、記録的な大雨により、大和川等の河川が氾濫する可能性もあることから、以下のような取り組みを実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まるごとまちごとハザードマップ</li> <li>・地域の防災訓練</li> <li>・大和川水防・大阪府地域防災総合演習</li> </ul> <p>(詳細は報告書 P48 参照)</p> <p>なお、低所得層については、国の生活保護制度により、対応しています。</p>	
<p>3.2 ハイリスク環境の事例を挙げよ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. どのようにハイリスク環境を設定しているか述べてよ。</li> <li>2. 優先的集団や環境について述べてよ。</li> <li>3. それらに対し、コミュニティでは特定のプログラムがあるか述べてよ。</li> <li>4. 取り組みのタイムテーブルについて述べてよ。</li> <li>5. それらのグループは、それらの活動の予防的側面に関わっているか述べてよ。</li> </ol> <p>大和川等の河川周辺地域</p> <p>1982 年に起こった台風及び集中豪雨では、西除川と今井戸川の溢水や大和川の背水の影響で浸水被害が発生しました。幸い市民の命が失われることはありませんでしたが、1,963 世帯で床上浸水するなど、大きな被害に見舞われました。その後、雨水ポンプ施設の整備や、河川等の改修により、大規模な水害が発生することはなくなりましたが、記録的な大雨により、大和川等の河川が氾濫する可能性もあることから、以下のような取り組みを実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まるごとまちごとハザードマップ</li> <li>・地域の防災訓練</li> </ul>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>年に1～2回、町会や自主防災組織が中心となり実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大和川水防・大阪府地域防災総合演習 3年に1回、国、大阪府、近隣市町村、地域住民、企業等が参加。</li> <li>・洪水ハザードマップの配布 市で随時配布。 (詳細は報告書 P48 参照)</li> </ul> <p>※松原市を囲むように断層が走っていることや、日本の南方100 kmから150 km付近の海底を、ほぼ日本列島と平行に走る海溝があり、それらが大きな地震を引き起こす可能性があります。そのため、市域全体が地震のハイリスク環境であると考え、重点課題として設定し、対策委員会で取り組みを実施しています。 (詳細は報告書 P68～72 参照)</p>	
<p>セクション F 【指標 4】</p>	
<p>4.1 それぞれの年齢層、環境に対して行われた根拠に基づいた方策（戦略）/プログラムについて述べよ。</p> <p>松原市では、様々な年齢層や環境に対して、根拠に基づいた以下のようなプログラムを実施しています。その中で重点課題に対する対策委員会の取り組みは、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの安全 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレット等による安全対策の周知</li> <li>・身体機能の向上</li> <li>・校内安全マップづくり</li> <li>・校内安全対策活動</li> <li>・児童虐待に関する啓発活動</li> <li>・子育て支援に関するリーフレットの作成と配布</li> </ul> </li> <li>2. 高齢者の安全 <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内環境の向上</li> <li>・転倒予防のための運動プログラム</li> <li>・虐待の早期発見、対応ネットワーク</li> <li>・認知症、虐待の正しい理解、啓発</li> </ul> </li> <li>3. 交通安全 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全マップづくり</li> <li>・危険個所への対策</li> <li>・交通安全教室、講習</li> <li>・ヘルメットの着用啓発</li> </ul> </li> </ol>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>4. 犯罪の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯カメラの設置</li> <li>・子ども見守り活動</li> <li>・一戸一灯運動</li> <li>・防犯教室</li> </ul> <p>5. 自殺予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談機関の周知、拡充</li> <li>・ゲートキーパーの養成</li> <li>・高齢者の意識把握</li> <li>・自殺未遂者支援</li> </ul> <p>6. 災害時の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の防災訓練</li> <li>・家具転倒防止等対策の普及</li> <li>・地域の見守り活動</li> <li>・住宅用火災警報器の普及、維持管理の啓発</li> </ul> <p>(詳細は報告書 P49～P72 参照)</p>	
<p>4.2 根拠に基づいた方策（戦略）を企画・実践するにあたって支援センター、認証センター及び他の学術的あるいは知識を有する組織との連絡体制を持っているか。それはどの組織か。どのような範囲においてか述べてよ。</p> <p>注) 当フォームの最後に根拠に基づいた介入に関する WHO のリンクを掲載している。</p> <p>松原市では、支援センターである JISC に外傷調査評価委員会の委員として参画いただくとともに、松原市 SC 推進協議会や各対策委員会にもアドバイザーとして会議に出席いただいています。また、松原市の SC 活動全体の外部評価を行っています。</p> <p>外傷調査評価委員会では、医師会をはじめ、歯科医師会、大学、保健所、消防署、警察署に委員として参画いただき、データの分析や長期指標による取り組みの評価を行っています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>セクション G 【指標 5】</p>	
<p>5.1 傷害予防の方策を決定するにあたって用いるデータは何か。(例えば、外傷記録は病院、保健センター、歯科医院、学校、高齢者介護組織、そして警察等で記録されている。家庭調査も外傷やリスクのある環境・状況のデータ収集に活用できる。) どのような方法が用いられているか述べてよ。</p> <p>予防対策を決定するにあたり、重症度に応じて次のような外傷データを収集・分析しています。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>厚生労働省の人口動態統計、消防署の救急搬送データ、警察署の警察統計（自殺、交通、犯罪）、労働基準監督署の労働災害に関する統計、学校の災害共済給付申請記録、アンケート調査などを活用しています。</p> <p>（詳細は報告書 P73～75 参照）</p>	
<p>5.2 安全向上・傷害予防を推進するため、どのようにデータが提示されているか述べよ。</p> <p>各種データは、所管する機関や団体により対策委員会の指標にあった形式もしくはデータのみ提供してもらっています。</p> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口動態統計：市の情報を基に、厚生労働省が集積したデータを年に1度、藤井寺保健所より提供。</li> <li>・警察統計：警察が集積したデータを年に1度提供。</li> <li>・救急搬送データ：消防署が集積したデータを年に1度提供。</li> <li>・けが及び安心安全に関する実態調査アンケート：3年に1度市が実施するアンケート調査の結果を提供。</li> </ul> <p>（詳細は報告書 P74～75 参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>5.3 どのように傷害の原因、リスク、ハイリスクの環境に関して記録し、その知識を活用するかを述べよ。また、どのように継続的な進捗を記録するか述べよ。</p> <p>各種データについては、市役所の市民安全課セーフコミュニティ係で取りまとめ、外傷調査評価委員会が分析し、各対策委員会に提供しています。各対策委員会では、そのデータを基に課題の設定や取り組みの効果測定に活用します。</p> <p>（詳細は報告書 P73～83 参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p><b>セクションH【指標6】</b></p>	
<p>6.1 プログラムからの傾向や結果を追跡するため、どのように傷害データを分析するか。何がうまく機能していて、よい結果をもたらしているか。何を継続しようと計画しているか。何を変更しなくてはならないか述べよ。</p> <p>外傷調査評価委員会が各対策委員会の設定する取り組みの成果を測定・評価できるよう外傷に関するデータの提供を行っています。中でも救急搬送データは、事故種別・場所別・受傷者の年代別・傷病程度別に把握可能なことから、主要な外傷データソースとして位置付けています。また、既存のデータでは、把握できない傾向や結果については、アンケート調査を実施することで対応しています。</p>	<p>用いられた方法は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>さらに、レセプトの電算化に伴い、2011年7月診療分より可能となった国民健康保険診療報酬明細書の分析を継続し、経済的な効果の確認に活用しようと考えています。</p>	
<p>6.2 プログラム評価の結果はどのように活用されているか述べてよ。</p> <p>重点課題ごとの取り組みに対して定めた短期、中期、長期の指標を基に、対策委員会や外傷調査評価委員会がそれぞれの取り組みを評価し、その取り組みの改善等を判断します。さらに、JISC に結果を報告し、外部評価を受けるとともに、松原市 SC 推進協議会において、今後の活動の方向性を決定する基礎データとして活用します。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>6.3 プログラムの結果による傷害パターン、傷害リスクに対する姿勢・行動・知識における変化を述べてよ。</p> <p>松原市では、各対策委員会の取り組みに対し、短期（認識の変化）、中期（行動の変化）、長期（状態の変化）の指標を設定し、効果の確認を行っています。例えば下記の変化がみられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の防災訓練 2012年度 小学校3校で実施。 小学校の日曜参観日を利用し防災訓練を実施することで、これまで訓練への参加が少なかった児童やその保護者の参加が実現し、防災に対する意識や知識の向上が見られました。</li> <li>・ヘルメットの着用啓発 2012年度 幼稚園1園で実施。 幼稚園において保護者が集まる機会を利用し、ヘルメットの効果や啓発を行った結果、普段子どもにヘルメットを着用させていない保護者の約90%が、今後子どもにヘルメットを着用させようと思うと回答し、取り組みによる認識の変化がみられました。</li> </ul>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>セクション I 【指標 7】</p>	
<p>7.1 どのように国内・国外の SC ネットワークに参加し、連携しているか述べてよ</p> <p>松原市は、国内外で行われた会議等に積極的に参加するとともに、活動の報告や研究の内容について発表してきました。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>

<p>国内においては、認証を取得している自治体との情報交換はもとより、JISC との共催により SC 推進自治体が参加する SC 合同研修会を開催するなどし、情報共有等を図ってきました。また、国内の SC に取り組む自治体で構成される「全国 SC 推進自治体ネットワーク」に参加し、さらなる連携を図っています。（詳細は報告書 P84～85 参照）</p>	
<p>7.2 認証式典は、何等かの国際会議、その他国際的なセミナーやフォーラム、国内の交流と併せて行う予定か述べてよ。</p> <p>国内の認証自治体及び認証に向けて取り組んでいる自治体に対し、松原市における SC 活動の情報発信ができるよう、式典のみならず、自殺をテーマとしたシンポジウムの開催と各対策委員会の活動をまとめたポスター展示等を予定しています。</p>	
<p>7.3 どの認証コミュニティを招待する予定か述べてよ。</p> <p>国内の認証自治体及び認証に向けて取り組んでいる自治体を招待する予定です。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>7.4 どの海外・国内の会議に参加してきたか述べてよ。</p> <p>海外</p> <p>2012. 6 韓国済州島 SC 日韓合同ワークショップ及び済州島 SC 再認証現地審査参加</p> <p>2012. 9 JISC セーフコミュニティ合同研修会 共催</p> <p>2012. 11 第 6 回アジア地域 SC 会議参加及び発表</p> <p>国内</p> <p>2011. 11 全国 SC 推進自治体ネットワーク会議 参加</p> <p>2012. 5 長野県箕輪町 SC 認証式典参加</p> <p>2012. 11 東京都豊島区 SC 認証式典参加</p> <p>2012. 12 長野県小諸市 SC 認証式典参加</p> <p>2013. 2 京都府亀岡市 SC 再認証式典参加</p> <p>（詳細は報告書 P84～85 参照）</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>
<p>7.5 どの地域の SC ネットワークに加わる予定か（加わりたいか）記載せよ。（アジア、ヨーロッパ、環太平洋、アフリカ、ラテンアメリカの地域ネットワークがある。）</p> <p>アジア地域 SC ネットワークに加わる予定です。</p>	<p>記述は十分か？</p> <p><input type="checkbox"/> はい</p> <p><input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>「いいえ」の場合、不十分な点は何か：</p>